



1_毎回出場の常連の皆さんのほか、初出場の方も。 2_大物賞を獲得した土井さん。釣り上げた直後思わず笑顔に。
3_優勝の伊藤さんが釣り上げたイワナやニジマス7尾、計5.1kg。 4_獲物を狙う姿は真剣そのもの。

贅沢な自然環境を活用

「水清き町、金山」。そんなキャッチコピーにふさわしい清流が、金山の各地に点在しています。神室山から流れ出る金山川の水は、飲み水として町民の皆さんの喉を潤しているほか、今の時期は町中の田にいきたり、美味しいお米を育てます。清き水は人間にとっても大事なのですが、川魚にとっても必要不可欠。金山には天然のイワナやヤマメなどが多く生息しています。

金山の贅沢な自然環境を有効に活用しようと3年前から始めたのが「神室溪流競釣り大会」。5月14日、第4回目となる同大会が神室ダム放水口付近を会場に開催され、遠くは東京都から、合計22名の参加者で制限時間内に釣れた魚の総重量を競いました。

県外からの実力者も参加

「漁場となるエリアにイワナやヤマメ、ニジマスを120尾放流した。最低でも27cm以上、大きいクラスで60cmを超えるものもいる」と話すのは大会実行委員会の会長である小沼四市さん。参加者の皆さんに楽しんでもらうために考

第4回神室溪流競釣り大会を開催

45cm超す大物イワナも！

えたと小沼さんは続けます。腕利きの釣り人が集まる中で、実力を見せつけたのは伊藤孝志さん（秋田県横手市）。伊藤さんが3時間で釣り上げたのは7尾、5.1kg。2位に約3kgの差をつける断トツの優勝でした。伊藤さんは「4回連続で出場して、やっと優勝できた。釣り場とえさの相性が良かったのかもしれない」と照れ笑い。特別賞の大物賞を手にした土田博さん（秋田県羽後町）が釣り上げたイワナはなんと46.5cm。「かかった瞬間に大きいと分かった。3分以上格闘し、やっと釣り上げた」と誇らしげに語ってくれました。

金山ならではの釣りを楽しむ

「金山では1尾の楽しさを味わえる」。これは参加者の多くが話していたこと。県内外で溪流競釣り大会は開催されていますが、実はここまで大きなサイズが釣れるところはあまりないそうです。もちろん量が釣れるのも楽しいですが、大物を仕留めるのもまた釣りの醍醐味。ナンバーワンの大物が釣れる大会として、「金山ならではの」を追求してほしいものです。